

---

# 健全な俺と変態女

魔理沙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

健全な俺と変態女

### 【ZPDF】

Z9352S

### 【作者名】

魔理沙

### 【あらすじ】

普通の高校生といえなくなってしまった？

あの変態女のせいだ！

これは高校生男子の非日常的なストーリー

## 俺の毎日が…

「あー一つまんねえ。」

俺は木村健太。

名前も普通だし、目立つ男ではない。

だからといって目立たたくもない普通の高校生だ。

「健ちゃんーん…」

手をふりながら机へ走って来るあいつは…

瀧川拓也。俺とは正反対の目立ちたがり屋。

なぜ一緒にいるのかって？

俺が聞きたいくらいだ…

「健ちゃん、おつまよーーー。」

「朝っぱらから声でけーよ。」

「そんなに怒つてたらモテないぞーーー。」

「つばひ…」

とここつとも机に机はモテる。

顔も良こぼう方だと思つ。

そんなことをいつも俺は思つてこる。

変態じやないかって？

俺は健全だぞ！

そんなこんなでいつも一日が終わる。

拓也が部活なので一人で帰つていると

前方に人が倒れていた。

「え？ 大丈夫ですか？」

俺と同じ歳くらいの女の子だった。  
俺がかけよると

「ん？」

といつて田をひらいた。

「あの…大丈夫ですか？」

「ううん…」

「え？ どこか痛いですか？」

「ううん。 抱きしめてくれたら治るかもっ」

なつ何を言い出す、この女…

いや俺の聞き間違いか…

耳鼻科…予約しようか…

「えと…今なんて？」

「もう…何度もいわせないでよね！」

抱きしめてつて言つてるのよ…」

あつ…耳鼻科とりけしです。

「はあ…女の子を責めにまわす氣？」

「えついやいや責めつていうか…あんた誰？」

「あつそういうことなのね！」

名前を聞かないと抱きしめられないと…？

これは失礼しましたっ あたしは白河美亜！  
みーちゃんつて呼んでねつ（^\_^） -

「…。」

とんでもない変態女だ…  
今すぐ立ち去るべきだろ？…

「あつ俺！ 今から塾なんで……」「じゃあ美亞も行くー。」

つ

う、せん

「うん...」

ガバツ

俺はびっくりして起きた。

まつとたぬ彌をひと

「ん? 何の夢みてたの?」

ええ——  
——つ  
——  
——

うん夢だ……。

「…」

あー俺もういやだああ

ひつて俺は平凡な毎日と  
サヨナラすることになったのだ。

あの女をつれだし…

俺はあのあとまた氣絶したらじこ  
じうこひこあわつかあの女が居座つてゐ  
一つ言えることは俺の人生は今日  
180。かわしあつた

「ちよつとー早くお起きなさいよー。  
「ん…まだ6…00じゃねーか」

つて…いや

おかしいよな…幻覚だよな  
うん、そうだ

下着なわけがない！

「あの…俺が頭イカれた変態野郎だと  
思つたらいいつでもぶつとばしてくれ…  
それで…あの…聞くがお前は今服きてるか?」

俺は一応後ろをむいておいた

「うそ

「だよな…」

俺は安心してむくとやまつはいつは下着だった

「おつおこー下着じやねーかよ！」

「下着も服じやない！」

やつぱりこの女イカれてる。

一度病院につれていくべきだらう。

「で！あたしもあんたにいいたいことがあるのー。」

「なんだよ。」

「なんで昨日から下着なのに襲つてこなーのよ？」「

あーまた意味不明なことを…

「おれ昨日気絶してただろ？」

お前もみてたじやねーか。」

「え？ 気絶したフリして襲おつとしたんじやなかつたの？」

ぶつ  
…

どんな思考回路してんだ、」

「つーかもうこんな時間だ

「あ…そつかー学校か！」

こいつは今日から俺の通つている

佐渡山高校に転入する

あいつがなぜあそこにいたとか

親はどこにいるんだとか聞きたかったが

急いでこるので後で聞くひとつ迷った

高校には前から連絡していたらしい

「職員室に案内して！」

「はいはい。」

「いいだよ。おれエヌははじまるからむづくわ

「みんな席につけ！ 今日は転校生がいる。」

ガチャ

「田河美里です。よろしくお願いします。」

ちょーかわいくね？

かわいい！

とか聞こえるがどいが…と

おもつてこると…

「健ちゃんーあの子かわいくない？」

となりの席の拓也がわざわざく

「セーーちゃんと聞いてるのか？」「

「へーい」

あいかわらず拓也は呑氣だ。

先生に俺達が注意したとき  
あいつは俺の方を見て笑った気がしたが  
きのせいだらう

学校では知らないフリをしようと  
さんざんいつたし大丈夫だらう  
一般的に美少女といわれるような女と  
なにか関係があつてそして同居なんて  
バレたらやばいことになる。

そうおもつていると

あの女がこつちに向かつて歩きだした。

「おい。白河、どうした?」

みんなの視線があいつを追う。

「健ちゃん。」

そつ声が聞こえると息ができなくなつた

みんなが

びっくりした顔で俺を見てゐる。

俺はこの状況を理解するのに時間はかからなかつた。

そう…俺はキスされたのだ  
この変態女に。

## 非日常の幕開け

俺は何がおこったのかすぐには理解できなかつた

周りのやつらは目をみひらき、俺をただ呆然とみつめていた。  
あの拓也ださえも口を金魚みたいにパクパクさせ驚きをかくせない  
よつだ。

俺も理解ができず、2Dの教室は不気味に静かだつた。

しかし一人だけ一コ一コしながらおれをみつめているやつがいた。  
そうだ。あの変態女だ。

「健ちゃんっ？あたしのちゅうどつだつたあ？」

そつか…

俺は今やつと理解したのだ。

俺は…

俺はこの女にキスされたのだ。

初めてのキスを

クラスメイトのやつらの静まりがとけ今度はさわぎだした

ええ？あいつあんな彼女いたんだあ

俺はただ平凡な日常が送ることができればよかつたのに  
どうしてこんなことになつたんだ？

俺は回りの空気にたえられず、教室をぬけだした。

後ろから生徒のやわめき、注意する先生の声、  
そして俺の名前をよびつづける拓也の声。

俺はその教室をあとにして、屋上へむかつた。

何時間すぎただろ？

拓也がきた。

「健ちゃん。」元へいたのか

「ああ

俺は拓也の顔をみないで答えた。

沈黙が続く…

拓也との間に沈黙が続くなんて初めてだ

きまづくなり俺は切りだす

「あの女の事きかないのか？」

「聞いても俺には理解できそつてないよ」

「…………。 そうか。」

「でも健ちゃんの親友として聞いておうつかな？」

何分かかったか

おれは全ての出来事をはなした

「ナツなんだ。」

「ああ……。 むどうかないのか？」

「俺は歩くハプニングだぜ？ そんなことで驚かねーよつ  
で？」これからどうすんだ？

「なんもかんがえてねえ。 だがあいつは俺と出会つ前になにがあつ  
たのか

まだなんにもしんねえ。 なんかほつとけねえんだよな……」

「そつか… 健ちゃんは昔つから優しいな  
なのになんでモテないんだろ？」

「余計なお世話だ！」

屋上にはこつもの俺らの笑い声が響く。

俺は決意したんだ  
あの女から逃げないって。

。。。。。。

俺は毎日毎日覚ましの音で朝を迎える。

もぐもぐ…

あいつはまだ俺のベッドの中で寝てこる。

もう驚きやしない。

あいつと出合ってから一週間……

俺のファーストキスを奪った女…かあ。

でもほんと可愛い顔してんなあ…

俺はこの女とキスを……

じーつ

あぶつ俺今キスしようとした。あいつにキスされてから俺は妙に意識してしまつた。

ここにキスされてから俺は妙に意識してしまつた。

好きとか  
ないない（・・・・・）

先学校いつとくぜ

俺はそいつぶやき家をでた。

キーンゴーンカーンゴーン

「H R始めるから席につけー」

先生が教壇にたつ

委員長前に出てこい

「なんだなんだあー」

委員長の拓也は大きな声で言ひつ。

「先生もしかして修学旅行ですか？」

もう一人の委員長の崎本 ありさが静かに言ひつ。

崎本さんはクラス一の美少女で成績優秀だが少し冷たいので  
男子は絡みづらいらしい。

だが拓也だけはいつも崎本さんに話しかける。  
だからお似合いだよなーとクラスで密かに噂されているのだ。

「やうだ。委員長を中心に修学旅行のしおりづくりを頼んだゾ」

「わかりました

「うーー

「セウニや美里ちゃんになくなー?

そうこう言はれていたんだろ...

まだこの話4話は執筆中です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9352s/>

---

健全な俺と変態女

2011年10月9日01時40分発行